やるぞ！一期生

公立一貫校・屋代高付属中の初年度

<1>

市立中の1割増55分授業

試行錯誤のスタート

教室に5時限目の終わりを告げるチャイムが鳴ろうとしている。4月24日、今春開校した屋代高校付属中学校の1年B組の数学の授業。40人の生徒は机の上の練習問題と向き合い、シャープペンシルを持つ手を動かし続ける。時折、教員の指摘を受けながら各自のペースで問題を解き進め、午後2時35分、55分間の授業が終わった。

屋代高付属中の授業時間は、通常1授業50分で時間割を組む市立中学校より5分長い。屋代高と同じ校舎で学び、特別教室を共有するため、高校の時間割に合わせた措置だ。しかし、この5分間が積み重なると、付属中の生徒は一般の中学生より年間10％多く学習することになるという。

「5分長いのと短いのでは大きく違う」と話すのは、市立中学校から赴任したA組担任の宮澤宏教諭。担当の英語では10％増の学習量を見越して、従来の読み書き中心の教材に加え、聞いたり話したりする力を付けるための教材を使い「生徒が授業を理解しているかどうか確認できる」と実感する。

ただ二つの教材を扱うため、宮澤教諭は「ペース配分が難しい」と言う。屋代高付属中では授業時間が5分長いからといって、1年時の終わりに2年時の学習内容に入るような教育課程の前倒しは想定していない。しかし、「上の学年の内容に触れた方が学習効果が見込める場合もある」（数学の山崎聡教諭）と、授業の進み具合によっては臨機応変な対応を考える教員もおり、各教員が授業時間の使い方に試行錯誤を続けている。

数学の授業で練習問題を解く生徒たち（4月24日）